

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170401764		
法人名	株式会社 ハートケアライフ		
事業所名	グループホーム ハートケアライフ八軒 1階 めくもり		
所在地	札幌市西区八軒5条西3丁目3番26号		
自己評価作成日	平成27年1月6日	評価結果市町村受理日	平成27年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=tue&JigyosyoCd=0170401764-00&PrefCd=01&VersionCd=022
-------------	---

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎日が穏やかで安心、安全に過ごして頂けるように、利用者一人一人への細かい配慮、観察に努めている。身体レベルが低下され、集団での外出は限られて来ていますが、その時の状況をみながら季節感を感じて頂ける様に柔軟に対応しています。外出が限られている方へはホーム内での行事に趣向を凝らしています。誕生日はその方が楽しんで頂ける様に御本人の意向に添った内容にし、その日1日気分が晴れやかになるようにしています。

ホーム菜園で野菜、花を育てお元気な方と成長の過程を楽しみ収穫して野菜を食卓に並べて全員で味わい家庭的な雰囲気作りを行っています。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西7丁目1番あおいビル7階
訪問調査日	平成 27 年 1 月 29 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは、家庭的で穏やかで安心してゆっくりと生活が送れるよう利用者を支援しています。また、家族や地域の方が気軽に訪問できる雰囲気づくりにも努めています。利用者の一人が「自叙伝を作成したい」との希望を叶えるため全職員が協力して本に纏めてあげたとの事。個人を尊重し職員は利用者ができることを見つけてその力を使って頂くよう支援しています。介護記録や日誌も詳細に記録しています。介護記録は複写になっており一枚は家族へホーム便りと一緒に郵送しホームでの様子を報告しています。年間の行事として、年の初めには、家族主催の初釜、職員と一緒に作成する絵馬、手打ちそば作り、化粧療法、焼肉パーティー等のほかに外出する機会も多く利用者の楽しみになっています。家族からの意見や要望に対しては迅速に対応し経過、対策を記録し結果を報告しています。医療では2週間に1回提携医療機関の往診や週1回の訪問看護による健康管理の支援が行われており利用者や家族の安心に繋がっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	フロア内に掲示し全員で共有している。各自の名札に携帯し思いなおしている。	「ハートあるふれあいと支え合い」を基本とした5つの理念を作り、ホーム内や職員のネームプレート裏に掲示しています。2階ユニットでは全職員が理念解釈として自分の言葉で伝わりやすいように書いた理念を月毎にフロアに掲示しています。開所当時からこの理念に基づき日々職員間で共有しながら実践に繋げるよう努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会や地域で行われている行事に誘いを受け参加している。小、中学校の訪問を受けて交流を深めている。散歩では挨拶を交わしお花を頂いたりと交流を深めている。	町内会行事や地区センターの催しに利用者と参加したり中学生の職業体験受入れ、児童会館の学童の訪問を受けたり、また近所の方が介護相談に訪れる等、地域住民とは交流を深め馴染みの関係づくりができています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で取り上げ、認知症の理解や支援に努めている。近所の方の突然の相談にも常に応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括の職員さん町内会の役員さん、御家族の皆さんにサービスの状況、取り組みを報告し、ご意見を頂きサービスの改善と向上をめざしています。	利用者家族、民生委員、主任児童委員、地域包括支援センター職員、代表者、管理者、職員の参加を得て2ヵ月毎開催しています。様々な課題をテーマに話し合わせ、そこでの意見を運営に反映するよう取り組んでいます。会議議事録は全家族に渡しています。	運営推進会議は、地域密着型グループホームの機能と役割に対する理解を深めて頂く為にも従来の参加者に加え地域住民への参加を呼び掛ける工夫に努め、より、一層意見の活性化を図り運営に活かせるよう期待いたします。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	札幌市管理者会議、西区管理者会議に出席し情報交換したり相談している。	行政とは通常業務の中で連絡を取り合い協力して取り組んでいます。市や、区の管理者会議にも出席し情報交換を行うなどして連携を図っています	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	北海道高齢者虐待防止講習に参加したりホーム内で施設内研修を開催し具体的内容を話し合い正しく理解し身体拘束のないケアに取り組んでいる。夜間のみ防犯面から施錠しています。	外部、内部研修会で繰り返し勉強し、職員の意識の共有を図っています。代表者や管理者は夜勤の際のストレス軽減にも配慮し身体拘束のないケアの実践に取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修、施設内研修で高齢者虐待防止について全員が正しく理解するように取り組んでいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修会に参加し情報を会議で報告し理解を深めている。現在1名の方が利用しています			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に利用契約書、重要事項の説明をし不安や疑問点については十分な説明をし納得、理解して頂いています。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホーム玄関に投書箱を設置し、意見や苦情があった場合はすみやかに改善策を出して掲示し運営に反映させています。	家族の来訪が多く、来訪の際には会話をするように努めています。苦情や要望があった際には「対応記録シート」に記録し迅速に対応し、代表者、管理者を含め全職員間で共有を図り、そこでの意見を運営に反映させるよう取り組んでいます。ホーム便りと一緒に利用者本人の介護記録シートも同封しホームでの生活を知らせしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の会議には必ず代表、施設長の参加があり意見や提案、話し合い反映出来ています	勤続年数が長い職員が多く、職員同士話しやすい関係で、毎月の会議でも様々な意見や提案が出され運営に反映させています。外部研修についても全職員が参加できる機会を設け、会議時に研修報告を行い内容の伝達にも努めています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個人面談、自己評価を行い、自由に意見を述べる機会を持ち勤務状況を常見守り、給与水準、労働時間、やりがいなど各自が向上心を持てるように職場環境、条件の整備など不平等にならないように努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間を通して、全職員が希望する研修に参加出来る機会が確保されています。内部研修は年間の計画を立てて担当者が調べて会議で報告し知識を深めております。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者会議やグループホーム協議会の勉強会には参加し施設サービスの向上反映するよう努めております。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に、事前に管理者・施設長が面会に出向き、現在の状態や生活歴を聴取し、今困っていることや不安なこと、要望等に耳を傾けながら安心の確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族にホーム全体の雰囲気を見て頂き、現在困っていること、入居に関して不安なこと、要望等を聴取し、希望に添った介護計画を話し合い、関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービスの利用を開始する段階で、病院等から入居される方は、家族からの日常生活聴取だけでなく現在の身体状況や病状を確認把握し整理した上で、必要としている支援を見極めて対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の出来る事は積極的に行って頂ける様に支援し、出来ない事は一緒に行うという関係を築いています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は、面会等で耳にする御家族の気持ちや言葉を毎日本人に伝える事で、御家族への絆を大切にしながら共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも自由に面会できるような環境を整えております。面会に来られた際にも、ゆっくり過ごして頂ける様な環境(廊下に生まれた土地の写真を飾る。居室に家族の写真を飾る)も整えております。	家族や友人が気軽に訪問できる雰囲気づくりに努めています。以前勤めていた喫茶店に毎月訪れたり、スーパー銭湯に出かけるなど、これまでの暮らしを大切に支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの性格を理解し、気の合う者同士が交流できるように努めております。全ての入居者が交流できるような場も提供しております。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院退去になられた方とも、その後もお見舞い等で交流を続けており、継続したサポート体制を図っております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや暮らし方の希望、意向を把握し、御本人の状況を踏まえスタッフ全員で検討し、希望に沿うよう努めている。困難な場合もあるが、なるべく御本人の意向に近づくような支援をしている。	日々の関わりの中で利用者一人一人の表情や仕草から思いを把握し、その人らしい生活ができるよう希望、意向に沿った支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方サービス利用など、入居時に聞き、入居後も面会者から随時情報を得ながら経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人日誌、朝夕の申し送り、職員同士の連絡ノート(身体、日常)により共有することで、それぞれの1日の過ごし方、心身状態をスタッフ全体で把握できるよう努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の月例カンファレンスにて全職員で話し合いケアプランに反映させています。	利用者や家族の意向を尊重しカンファレンスにて話し合い、個々のケアプランと連動した介護日誌を作成して毎日記録しています。全職員が情報を共有し現状に即した介護計画を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の様子は介護日誌に個別に記録し、職員間での情報は連絡ノートで共有しながら介護実践や計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	集団生活ではあるが、利用者個人のニーズに合わせたケアを心がけ、御家族や御本人の意見や希望に合わせた柔軟な支援・サービスに取り組んでいる。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方の協力体制が整っているため、町内会の行事・催し物に参加し、入居者の方が豊かな暮らしを楽しめるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	連携を結んでいる医療機関に2週間に1回訪問診療をしてもらっている。事業所だけでなく、御家族等の希望に応じて話し合いの機会を設けるなど、適切な医療を受けられるように支援している。	2週間に1回の協力医療機関の往診や週1回の訪問看護による健康管理の支援を行っており、利用者や家族の安心に繋がっています。また利用者や家族の希望で他科への外来通院など適切な医療が受けられるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週訪問看護師が健康チェックを行い利用者が適切な受診や看護を受けられるように相談指導を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者と常に連絡を取り合い、緊急時や治療が必要な場合、安心して治療できるように情報交換や相談出来る体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早期から御本人・御家族と話し合いを行い、事業所から来る事を十分に説明しながら方針を共有し、医師とも連携しチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合の対応指針6項目を作成し、利用者、家族に説明し同意を得ています。利用者の状況に合わせて家族や医師、関係者と十分な話し合いを重ね家族の気持ちに配慮しながら慎重に取り組んでいます。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急マニュアルを用いて勉強会を開き、全職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い有事に備えている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、避難訓練を実施。その際には、職員・御家族・地域住民の方にも参加していただいている。	年2回夜間想定避難訓練を地域住民協力の下実施しています。災害時に備えマニュアルや連絡網、非常食、家族への周知、停電時の対策、救急救命受講等、予期せぬ事態を想定した対策を常に話し合い今後も継続していくこととしています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は利用者の生活歴を理解し、人格の尊重に努めており、自尊心やプライバシーを損ねない声掛けや対応を心がけている。	職員の声掛けは穏やかで、利用者のプライバシーやプライドを損ねないよう十分な配慮を心がけています。個人情報の取り扱いの同意書も作成し書類の管理も適切に行われています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを引き出せるように分かり易い言葉がけをし、自己決定が出来る様にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務に追われ職員側の都合にならないよう、その方が1日をどのように過ごしたいかという思いを大切に、日頃から御本人の理解に努めた援助を心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自立度の高い利用者の方には自身で選んでいただき見守り援助、意志決定が難しい方には似合う服装選びの支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	毎食職員と共に食事をしている。出来る作業は利用者の方にも参加して頂き、個人の好みを普段の会話から聞き、嗜好に合わせたメニュー作成に生かしている。	食事は彩りよく盛り付けています。職員と一緒に食事をして、一人一人のペースに合わせて、BGMの流れる中、ゆっくり食事をしています。週1回のお酒の日や手打ちそば作りを楽しみにしている利用者もいます。食事の準備もできる範囲で手伝っています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれたメニューづくりを心がけている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の義歯洗浄、歯磨きの見守り介助、口腔内チェック、入居者個人の能力に応じたケア提供を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し誘導することで排泄の自立に向けた支援を行っている。	利用者の排泄チェック表を作成し、動作や表情から個々の排泄パターンを把握し、さりげなく誘導するなどして、トイレでの自立排泄に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排泄チェック、水分補給、適度な運動、食生活の工夫など個々に応じた予防に取り組んでいる。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	決められた入浴日程だけでなく、なるべく個人の希望に合わせた支援を行っている。	窓がある、明るい浴室です。ユニット毎、時間帯は異なりますが週2～3回、入浴日にとらわれず利用者の希望や体調に合わせて、無理強いせずゆっくり入って頂くよう支援しています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人の生活習慣や体調を、日々チーム内で情報共有し、日中に休息の時間を取り入れたり、適度な運動の指導をするなどしてその方にあつた支援を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別ファイル内に薬表を綴じての確認。薬剤変更時には、口頭連絡・連絡ノートに文書として記録するなどして内服ミス防止、症状変化を確認できるような体制を整えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	御家族のお話や、個人の生活歴の中から役割や楽しみを見出し実施。買い物やドライブで気分転換の支援を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季候や体調に合わせ、可能な限り利用者の要望にあわせた外出支援を行っている。車でのドライブや紅葉狩りなど季節に合わせた外出を行っている。地域住民の方とも交流できるような場への外出計画を立案し実施している。	ユニット毎、年間外出行事計画を立案し、ドライブや買い物、散歩、紅葉見学、玄関前での流しそうめん、地域行事、個別対応での外食など利用者の希望や体調、天候に合わせ、戸外に出て外の空気や雰囲気短時間でも堪能できるよう支援しています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の自己管理能力をアセスメントし、トラブルが発生しないようその方に合わせた管理方法を実施している。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	御家族との連絡を希望された際には、ホームの電話を利用して頂いたりと援助している。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内の清潔を保つのはもちろんのこと、生活感や季節感を視覚的に取り入れる装飾を取り入れて、入居者の方が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	居間は、食卓テーブルのほかソファも置いてあり利用者は気の合う同士自由に思い思いの場所で寛いでいます。光りが多く当たる窓には遮光フィルムを張る工夫をしています。壁には利用者と職員作成の絵馬や作品が掲示しています。廊下には絵画が飾られており落ち着いた雰囲気があります。共用空間は全体的に明るく不快な臭いもなく快適に過ごせるよう配慮されています。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間の中にはソファを置き、自由な過ごし方が出来る環境作りに努めている。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地良い生活空間を構築するため、御家族の協力を得て、使い慣れた物や馴染みのものをホームでも引き続き使用出来るようにしている。	居室には、馴染みの家具や調度品が整然と並び、家族の写真や趣味の刺し子、書道が飾られており、室内も明るく清潔で、利用者が安心して居心地良く過ごせる部屋になっています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全で自立出来るよう、ホーム内に生活パターンに合わせた場所に手すりを設置している。			